



暖かい心 広い視野 行動力

もりちゃん通信

大分県議会議員 守永信幸活動報告

発行責任者

守永信幸

〒870-0022

大分市大手町3-2-9

TEL 097-532-4919

FAX 097-534-6598

県民の安心・活力・発展で 県民の笑顔につながる県政を

2013年第1回定例会は、2月27日から3月28日まで30日間の会期で開催されました。主な議題としては13年度予算や12年度の補正予算などです。12年度補正予算では、国の大型補正予算を積極的に受け入れ、河川の築堤、護岸整備や山腹崩壊防止などの防災・減災対策、橋梁等の緊急点検やその補修・補強などの社会インフラの老朽化対策を行っていきます。また、東九州自動車道をはじめ道路ネットワークの整備や農産物の市場競争力強化のための施設整備を前倒して実施することとなりました。これらは、12年度の補正予算として計上しますが、実質的にはほとんどが13年度に繰り越して事業を実施することとなります。

13年度当初予算については、5817億2600万円と前年度当初予算と比較して0.7%のマイナスですが、12年度補正予算分を加えて、13ヶ月予算（3月に補正予算として計上しながら実質的に13年度に執行される補正予算額と、13年度当初予算額を合わせたものを13ヶ月予算と表現）としては、対前年当初予算比21.3%の大幅増となっています。



▲災害復旧が行われる現場
(中津市の国道212号線)

新規重点事業としては、県西部地域や県北地域等の豪雨災害の復旧・復興、防災力・防災機能の強化、景気雇用対策、子育て満足度日本一の実現、高齢者の元気づくりと支え合い、障がい者の総合支援、健康づくりの推進・医療の充実、恵まれた環境の未来への継承、地域の底力の向上、農林水産業の構造改革、商工業の底力発揮、ツーリズムの展開、明るい未来を切り拓くための人材育成（教育）、青少年の健全育成、芸術・文化・スポーツの振興、社会資本の整備等が計上されています。

防災力・防災機能の強化としては、12年度は地域防災の中核を担う防災士の養成に力を入れました。12年度に約2800人の防災士が養成でき、大分県下の防災士の人数は4300人となります。今年度は防災士指導者の養成などリーダー養成と併せて、スタッフ育成研修などが行われます。また、大規模災害時の広域対応として、大分県地域防災計画で広域防災拠点に位置づけている大分スポーツ公園を拠点施設としての必要な機能を抽出し、施設整備のあり方を検討することとしています。更に、豊後大野市にある県央飛行場を航空搬送拠点として必要な臨時医療施設・設備の整備が行われます。

大分県の恵まれた環境を未来に継承する取り組みとして、「ごみゼロおおいた作戦」が展開され10年を迎えます。10年を節目としながら関係者の連携をさらに広げる活動を支援します。また、豊後大野市や姫島村が、日本ジオパークの認定をめざして取り組んでおり、今年の秋に、委員会の審査を経て結果が発表されます。県としてもこの取り組みを支援し、認定後は全国に向けて積極的に情報を発信し、地域の活性化を図っていきます。



▲災害時航空搬送拠点となる県中飛行場

小規模集落の問題が深刻になっており、小規模集落の割合は、2008年の10.6%から15.2%へと増大しています。これまでよりも広い範囲で問題を捉え、小規模集落になりつつある地域にも対象地域を拡大し、集落が連携した取り組みを促していきます。小規模集落における飲料水等の確保のため、全国初の支援制度として、水源確保を含めた施設整備に助成を行うなど支援を強化して行きます。

「中小企業の発展」と 「人と自然の環境・資源対策」に頑張ります

今議会で常任委員会と特別委員会の異動があり、私は「商工労働企業常任委員会」と「人と自然の環境・資源対策特別委員会」に所属することとなりました。

大分県内の企業は企業数で見ると99.9%が中小企業であり、雇用者数では83.7%が中小企業に雇用されています。安倍政権に変わり、金融政策やインフレ誘導を宣言する中で、株価等の値上がりや円安の進展が見られますが、経済学者の中には、依然として大企業が、内部留保を膨らませるだけで意味をなさないとおっしゃる方もいます。実際、労働者の雇用創出と賃金上昇が実現できなければ、有効需要が伸びるはずありません。

この様な社会環境の中で、商工労働企業委員会の課題は山積しています。今定例会で『大分県中小企業活性化条例』も制定されました。条例の前文に触れられているように「中小企業が元気を出せる」、「中小企業が誇りを持てる」、「中小企業を皆で支える」大分県となるよう、精一杯の努力を重ねて参ります。

また、人と自然の環境・資源対策特別委員会では、委員長に選任されました。

この特別委員会は、大分県の恵まれた環境の維持と継承、地域資源の活用や次代を担う人材の育成について調査を行い、人や自然を取り巻く環境づくり、多種多様な地域資源の活用策等について検討する目的で設置されたものです。具体的には①恵まれた環境を守り、未来へ継承する方策、②地球温暖化対策や自然エネルギーの導入促進、循環型社会の形成方策、③多様な地域資源を活用した商品づくりやツーリズムの振興等地域活性化、④子育て環境の整備、⑤高齢者や障がい者、青少年を含む全ての県民が安心して生活できる環境整備などについて議会から付託を受け調査・検討するものです。かなり広範囲にわたる課題設定ではありますが、より具体性を持たせた議論をするべきだろうとも考えています。

気がかりな点等ございましたら、お気軽にお声がけ下さい。



護ろう地方自治の精神

～地方自治体の主体性の保証を求める意見書を採択～

今年度予算の編成にあたって、県に大きな影響を与える出来事がありました。それは地方交付税の削減問題です。しかもやり方が、地方自治を揺るがしかねないものでした。

地方交付税は、国税として徴収される「所得税」「酒税」「法人税」「消費税」「たばこ税」の一定割合を財源として、自治体の運営に必要な額を各自治体に配分するものです。これによって地域の人口や企業の数などによって生じる税収のばらつきを埋めて、住民の受けるサービスが、住む地域によって不均衡とならないようにしているのです。各自治体に配分された地方交付税の使い道については、地方交付税法で地方自治体の裁量に委ねられ、国が関与してはならないことになっています。

しかし国は、昨年から実施されている国家公務員の給与削減と同様に地方公務員の賃金を引き下げることが前提に交付税の算定額を引き下げたのです。公務員の給与水準は民間との比較で決定していますが、民間と比較して高いからという理由ではありません。地方自治体に配分する財政基盤が乏しいからという理由でもありません。「現下の最大の使命である『日本の再生』に向けて、国と地方が一丸となってあらゆる努力を結集する必要がある中、当面の対応策として、緊急にお願いするもの」と総務大臣が県知事宛に文書を発しています。しかし、地方において、公務員の給与を削減することが、地域経済にどれだけのマイナスの影響を与えるのかに思いが及んでいないのではないのでしょうか。

また、これまで大分県をはじめとする地方自治体は、財政状況が厳しいことから独自に賃金カットや職員定数削減などの合理化に取り組んできました。大分県も独自の賃金カットも実施してきましたし、2004年度から11年度までに職員定数を17.9%も削減しています。各自治体では、財政が厳しい中で、住民の皆さんのために必要な業務を責任を持って行えるよう工夫に工夫を重ねながら、合理化を実施しているのが実態です。

国の関与が激しくなると、住民の生活に必要なセーフティネットに関わる部門においても地方自治体の裁量を認めず、上意下達の押しつけがまかり通るような事態になりかねません。このような、国の対応を指摘し、地方自治の本旨を尊重すべきとの意見書を今議会で採択しました。

万が一の備えは、3・11を忘れないこと

～3月10日、大分市で一斉避難訓練～

3月10日に、大分市一斉での避難訓練が行われ、私の暮らす岩田町3丁目でも、一時避難所の岩田公園に86名の住民の方々が集まってきました。避難が必要な場合というのは、直下型で家屋の倒壊などがあった場合や津波の襲来が予測される場合となりますが、報道などで情報が得られない場合は一端一時避難所に集まり、津波の恐れがあるときには状況を確認した上で、速やかに高台に向け避難する行動を取ることになります。

今回の避難訓練では、一時避難所に集まるだけの訓練で終えた地区もあると思います。各地区にいる防災士と自治会とで連携を取って、より有益な避難訓練が行えるように工夫していくことも必要でしょう。

私の手元に、東日本大震災遺児作文集の第2集が届いています。タイトルは『3月10日までは、いい日だったね』。この作文を紹介します(右の囲み)。

この作文について、あしなが育英会の玉井義臣会長はこう綴っています。

9歳の少女は、作文を「お母さんがいたら、いろんなことができたね」とはじめる。「3月10日まではいい日だったね」と続け、母親の死を「忘れない」と言い切る。淡々と事実のみ書かれているだけに、この作文には、少女の深い「哀しみ」が秘められている。

この少女の「哀しみ」を癒やすためには、(多くの方々の)「やさしさ」がどうしても必要となる。癒やす場所としてのレインボーハウス建設を、一刻も早く実現したい。

この少女が「お母さんがいなくても、いろんなことができるね」と言い、「今日もいい日だったね」と微笑みを浮かべる日が来るためには、あふれんばかりの「やさしさ」が望まれている。

この作文集が、その一助となるなら、これに勝る喜びはない。

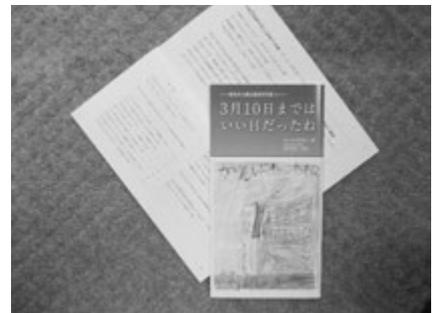
東日本大震災では、多くの子どもたちが家族を失い、心に深い傷を負ったまま、ある子は心の傷に深く沈み込んでしまい、ある子は心の傷に自らは気がつかないまま、それぞれが生活に追われています。あしなが育英会では、奨学金による進学支援だけでなく、子どもたちが背負っている心の傷を癒やすための拠点施設として、レインボーハウスを宮城県仙台市、岩手県山田町又は大槌町、岩手県陸前高田市、宮城県石巻市、福島県内に3カ所建設を計画しています。

このレインボーハウスは、東日本大震災遺児の心のケアを日常的、長期的に行う目的で作ります。そして、子どもに寄り添い、心のケアを必要とする子どもの心を大切にできるボランティアを大量に養成していく計画です。是非、一人でも多くの皆さんに理解を頂きながら協力をお願いしたいと思います。

そして、万が一私たちの住む地域に災害が起きた時、一人の命も失われることの無いように、準備をしておかなければなりません。南海トラフに絡む大規模地震が50年以内に発生する確率は90%とも言われます。3・11の出来事を忘れずに、備えをしていかなければなりません。津波に限らず普段の生活の中で、どの様な災害が襲来する可能性があるのか、心得ておく必要があります。



3月10日まではいい日だったね D・S (岩手県・小3女子)
 お母さんがいたら、いろんなことができたね。
 ケーキとかつくったりできたよ。
 保育園から帰ると、お母さんが作ったおやつを食べさせてくれたね。
 3月10日まではいい日だったね。
 次の3月11日の午後2時46分に津波がおしよせてきました。
 私とおとうさんとおじいちゃんは大丈夫だったけど、
 お母さんは、津波に流されてしまい、
 お母さんの仕事場の前に死んでしまいました。
 私はそのことをお父さんから聞きました。
 私はそのことを忘れないようにしたいと思います。



ひとを受け入れ、 新たな自己を見いだす美術館

～新県立美術館いよいよ着工～

4月12日に新県立美術館の起工式が、行われました。完成は、2014年10月末。開館は15年春の予定です。工事の契約金額は、本体工事が約51億円、電気設備工事が約7億円、空調設備工事が約10億円。契約総額約68億8千万円です。いずれの契約も地元企業が関係する共同企業体が受注しています。



▲新しい美術館を語る夕べ
(iichiko文化センター)

工事の間は、仮囲いで閉ざされ様子を伺うことはできませんが、工事期間中「仮囲いアート」が施され、近隣を訪れる方々の目を楽しませる企画が考えられているようです。県立美術館まちなか支局の取り組みと併せて、新美術館の完成を待ちわびる県民の皆さんの気持ちを高めて欲しいと思います。

一方これまで県民の芸術意識の高揚に貢献してきた芸術会館は、14年12月から休館となります。芸館の今後については、以前「芸術会館の今後の活用について全庁的な議論を行う」との回答があったものの、具体的な議論はまだ始まっていません。

予算特別委員会で、このことについて尋ねたところ「今後の芸術会館の建物や土地の活用については、関係する部署が複数に跨っており、何処が中心となって議論をし、業務を行うかは今現在未定。教育委員会としては、利活用の方針を決定するに当たり、現在建物の所管をしているため、その実態を詳細に調査・整理している段階」との答弁でした。

全庁的な議論については、県庁全部局を横断できる部局が核となって議論を進めるのでしょうか、芸術会館に、人を育てる施設としての役割を再び持たせることができたら良いのにも思います。運営面や補修等経費の伴う問題ですから、早急に議論がなされることを要請したところですよ。



行動日誌

- 1. 6 津留地区体協理事会(2/7, 3/7)・津留地区新年互例会
- 12 平和運動センター8の日行動
- 13 大分市消防出初め式
- 15 出前県議会「議員と語ろう in 南部地域」
- 18 大分政経懇話会(講師:徳川家広氏)
- 19 商業界大分同友会・豊の国商人塾合同研修会(講師:西端春枝氏、橋本夫妻)
- 20 米軍基地の整理縮小と日米地位協定の抜本見直しを実現する日出生台集会
- 25 誰もが安心して暮らせる大分県づくり条例をつくる会世話人会(2/17)
- 26 社会科学研究会
- 30 大分政経懇話会(講師:奥山真司氏)
- 2. 2 オスプレイ配備撤回沖縄連帯集会
- 4 大分政経懇話会(講師:末延吉正氏)
- 5 豊の国商人塾25周年シンポジウム
- 8 県民クラブ組織活性化研修会(講師:山口二郎氏)
- 11 建国記念の日を考える集い
- 14 原発事故子ども・被災者支援法を推進するフォーラム
- 16 東九州道「蒲江～北浦」開通式典
- 18 出前県議会「議員と語ろう in 中部地域(臼杵市)」
- 19 2013年度予算説明会
- 21 NPOきずな・コープ大分 地域生活弱者への支援事業提携宣誓書調印式
- 22 県議会出前講座(賀来小中学校)
- 25 自治研センター第2回理事会・理事学習会(講師:稲野慎氏)
- 2. 27 第1回定例県議会開会(～3/28)
- 27 津留地区体育祭企画会議
- 28 地方財政セミナー(東京)
- 3. 1 大分上野丘高校卒業式
- 1 自治研センター学習会(講師:湯本淵氏)
- 2 連合おおいた春闘決起集会
- 3 第4回みんなの森づくり市民植樹祭
- 7 オスプレイ訓練反対を県に申し入れ
- 10 大分市避難訓練
- 10 津留公民館まつり
- 10 さよなら原発3・11を忘れない集会
- 12 自治労春闘街宣行動(～3/13)
- 16 商業界大分同友会定例講演会(講師:緒方知行氏、渡邊正太郎氏)
- 16 50歳のお誕生日会
- 22 津留小学校卒業式
- 23 大分上野丘高校音楽部発表会
- 29 勤労者OB・Gの会グランドゴルフ大会
- 4. 3 自治研センター地方財政セミナー(講師:高木健二氏)
- 6 モンゴルと大分の子どもたちによるふれあい広場
- 7 城東春祭り
- 9 大分上野丘高校入学式
- 10 城東中学校入学式
- 10 大分政経懇話会(講師:佐々木伸氏)
- 11 津留小学校入学式
- 11 大分らしいユニークな新しい美術館を語る夕べ
- 12 県立美術館起工式
- 13 平和運動センター8の日行動

お知らせ

- ◇「商工労働企業常任委員会」と「人と自然の環境・資源対策特別委員会」に所属することになりました。
- ◇県議会や私の活動に関する報告会を皆さまの要請に応じて開催いたします。数人の集まりでも結構ですので、機会があればお知らせください。日程を調整させていただきます。
- ◇守永信幸後援会の会員を常時募集しています。年会費3千円です。守永の活動を支援してやろうという方、是非ご加入をお願いします。(連絡先:097-532-4919 担当=後藤)

編集後記

今回は、当初予算の議論で、お知らせしたいことが盛りだくさんで困ってしまいます。紙面の都合で、ほんの一部しか触れておりません。要請頂ければ、何処にでもお話を伺います。▶また、気になる話題があれば、今後もりちゃん通信で報告できるようにしたいと思います。それもお知らせ下さい。